

# 「ぜいはあ、」

作・演出 長野 恵美

## 登場人物

津島 洋美(37)……嶋木 美羽 独身OL。生きる為にイキる。ただのアヒルの子……？

金田 亜耶(25)……榊原 茜 不思議ちゃん。洋美の姪の親友(多分)。溺れるの大好き！

金田 柳子(54)……かくた なみ 超絶ミニマリスト。亜耶の母。シンプルイズベスト！

相川 佳子(42)……花美 えりい 略奪愛からの未亡人。洋美の姉。人生が昼ドラマ

相川 美鈴(25)……渡邊 杏奈 天使な子。佳子の娘。亜耶の親友。幸せいっぱいいっぱい

上原 野乃花(32)……長野 恵美 ちよつど良い女。洋美の職場の後輩。計算とか得意です。

天島 庵(33)……坪和 あさ美 不動産会社の人。完全なる部外者その1。愛と欲望の果て。

チヨコ太郎(？)……内田 啓太 地縛霊。完全なる部外者その2。忘却、結婚、以上……！

※2019年9月の物語です。

この物語はフィクションです。

0

高級そりなマンションの一室。

舞台下手後方には2人掛け用のソファ、舞台中央には大きな丸テーブルに椅子が2脚。舞台上手後方にはテレビが。他にも、本棚やルームランプ等が設置されている。舞台中央後方には、高そりな絵画も飾られている。

開場中。チヨコ太郎が、一人で場内整理をしている。

チヨコ いらつしやいませー。会場内、とても狭くなっております。気を付けてお入りくださーい。あ、僕、内田啓太です。役者です。あ、いらつしやいませー。受付でもらったドリンク、あると思うんですけど、これは、いつ飲んでいただいても構いません。ただし、外から持ち込んだドリンクや食べ物、ダメです。ここではダメ。メッーあ、お手洗いは客席後方に凄いのが、おタバコは所定の喫煙所をお願いしまーす。上演時間85分を予定しておりますので、今のうちに諸々お済ませくださーい

等々、良い感じに場内整理をしながら、観劇に関する諸注意も。  
花道付近にお客様がお座りになられたら、

チヨコ あ、花道チェック入りまーす！

と宣言し、花道を奇妙な動きをしながら往復する。

チヨコ はい。僕が通れるのでOKです。ご協力ありがとうございます。はい。花道という言葉でピンと来た人もいると思うんですけど、ここ(花道を指し示す)この道、上演中使います。役者、通ります。まあ、僕さえ通れば他のキャストさん全員通れるんで、だから僕、ここに居るんですけど。役者なのに。客演なのに。ねー。全く、理不尽な話ですよー

照明、少しの間、赤く点滅する。

チヨコ あ、これ、劇団Theater Eastの長野さんが怒っているという合図です。今回はその、劇団Theater East+主宰の長野恵美さんが音響と照明もやってるんですけどね？今回、あまりにも役者としての出番が少ないからあ、やっぱり、私ももっと目立ちたいんで、えへへ。私、怒ったら、照明とか音響で感情を表現しますね。えへへとか言いやがりまして「私が脚本を書いて演出してるんです。だから、私は神様です！えへへ」って、いや、なんか良く分からないんですけど、まあ役者としては「あ、はい。分かりました」しか言えないじゃないですか？

等々、アドリブでトークを繰り広げたり、真面目に場内整理したり、照明が変わったり、花道チェックをしたり、好きな歌を歌ったりして過ごすチヨコ太郎。

チヨコ でもね、僕思うんですけど、人間も、似たようなものだなーって。はい。誰かしらに、それぞれのニーズに合わせた役割を与えられて、それに沿って、なんとなく生きているんだな僕達はーって。だって、自分の名前ですら自分でつけたものじゃないんですよ？凄くない？これ、凄くないか？僕が役者やるぞーって決めたのも、僕としては自分の意思で決めたーって思ってますけどもしかしたら小さ

い頃に見たドラマ俳優に憧れてーとかかもしれないじゃないですか？つまりその場合、僕が今、役者をやっているのは、その俳優のせい？おかげ？自分の意思じゃない？こうやって今僕が日本語を流暢に喋っているのも周りから教えられたからだし、あ、もうすぐ開演時間だなーって思えるのも、決められた時間を守らなければならぬという概念が僕の中に存在しているからであって

やがて、開演合図の曲が流れる。

チヨコ お、この曲が流れたという事は、そろそろ開演です！開演ですよみなさん！  
本当にお待たせしましたー……あ、携帯スマホは電源を切るか、ブーツ！て、なんか、あの、ブーツ！て、なんか震える奴すら出ない設定にしていただいて

喪服姿の佳子と美鈴、チヨコ太郎の後方に登場。佳子は泣いている。

【2019年初夏・相川顕吉氏葬儀】

チヨコ あっ

佳子 顕吉さん……

美鈴 ……

佳子 ……ねえ……どうして、泣かないの……？

美鈴 ……

佳子 貴女のお父さんが死んだのよ……？どうして、泣かないの……

美鈴 ……

佳子 貴女はいつもそう

佳子、退場。美鈴、俯く。チヨコ太郎、滅茶苦茶気まずい。間。

チヨコ えっと……（頭を押さえる）うっ……ここは何処……私は誰……？

チヨコ太郎、頭を抱え、壁の中に消える。

美鈴 ……ごめんなさい

暗転。開演。

1

【2019年晩夏・によぜがもん如是我聞不動産】

電話の呼び出し音。

庵声 はいはいはいはい

明転。電話を持った庵、登場。

庵

あ、自分で持ってたー。がちやつ。大変お待たせ致しました！如是我聞不動産の天島庵でございます！あ、でも私、もうすぐ天島庵ではなくなってしまうんです。私、実はもうすぐ、結婚するんです！結婚して、天島ではなくなってしまうんです！キャツ！え、何々？じゃあその、新しい苗字を教えろよ。この、うっかりさんめ！ですって？いやー、教えたのは山々なんですけど、私、実は、結婚と同時に、寿退社してしまうんです！キャツ！言っちゃった！！だからせめて、「ニ」では最後の最後まで天島庵で通そうかなあつて

スマホを持った洋美(電話の相手)、登場。思い詰めている様子。

洋美 あの！

庵 はい？

洋美 高級マンションを購入したいんですけど……！

庵 はい………え？

曲。洋美と庵、電話をテーブルの上に置いて向かい合う。

洋美 よろしくお願いします。津島です

庵 よろしく願います。天島です。え、やだー。何か、思い詰めてません？顔色、凄く悪いですよ？

洋美 そうですね

庵 仕方がないなあ。私が幸せを分けて

洋美 私がその事に気がついたのは、私が4歳の時でした！

庵 何か急に始まった

洋美 あの日、私は家族と一緒に、ショッピングモールに来ておりました

佳子声 洋美ー。こっちだよー

洋美 お姉ちゃん待ってー。と、その時です

車、出てきて洋美を轢く。

洋美 ぐはあ！

車 あ、やべ

佳子声 洋美ー……？

洋美 私は、生まれて初めて車に轢かれました

庵 下のお名前、洋美さんって言うんですね

洋美 感想そこかよ。驚くべきはこの時、私のすぐ傍に、母と父が居たという事です。何なら私は母と手をがっすり繋いでいたし、お姉ちゃん待ってー。とは言ったものの、私はまだ車道に飛び出してすらいなかった。いや、飛び出す直前だったけど。そう。つまり、車の方が一方的に、私に向かって突っ込んで来たのです！

庵 あらま

車 悪気はなかったんだよう(退場)

洋美 私は全身打撲と肋骨を折る重傷。なのに、私とがっすり手を繋いでいた母は無傷。こんな荒唐無稽な事、普通あると思いますか？ありませんよね普通？

庵 ウケる

洋美 だから私、その時悟ったんです。ああ、私の人生はつまり、こんなもんならってあらま

洋美 まあ実際こんなもんでしたよそれからも。勉強もスポーツも、何だって頑張った。なるべく良い子でいようと家のお手伝いも積極的にならして来たし、社会のルールも絶対に守ってきた当たり前だけど。大学だって奨学金を借りて自力で通った。新卒で就職先も決めた。無論年金も税金も滞りなく全額支払ってる！！なのに、みんなから愛され、注目されるのはいつも姉の方。あと、男にモテるのも姉の方。私の彼氏達はみんな、私が意外と面倒臭い女である事に気づいた瞬間去って行く。みんなそう！姉の男達は正反対なのに

庵 姉って、さっき声だけで登場してきた人？(佳子の真似をする)

洋美 そうその人！！いや、別に姉が何も頑張っていないのに愛されるとか、そこまです言っつもりはないんです。ただ、私と違って、ほんのちよつとの努力で愛されやがってと言いますか、可憐で？儂げな？雰囲気を出せる人って、なんてムカッ

庵 (遮って)あーあーあー分かります分かります！ムカつきますよねー、そういう可愛いだけでチャホヤされてる女達

洋美 分かりますか？

庵 分かりますよー。まあ、全然努力してないとは言いませんけど

洋美 うん。うん

庵 だからこそ堂々と責められなくてムカつくって言うか  
ええ、ええ

洋美 私なんかダーリンからよく言われますもん「お前は一人でも、てか、サバンナでも生きていけそうだな」って

洋美 えー、貴女も言われたんですかサバンナー

庵 えー、洋美さんも言われたんですかサバンナー

洋・庵 かわいそーう

洋美 てか、姉だけじゃないんです。うちの会社にも居るんですよそういう女。しかもそいつ、姉と違って醜女なのに

庵 シンメ？

洋美 はい。みにくく、すさまじい女。黄泉の国の女鬼の類です

庵 何それこわーい

洋美 なのにあの女、仕事もろくに出来ない癖に男達からチャホヤされて仕事。あ、そうでしたこれ仕事中心でした

洋美 そうでした高級マンションを購入したいんでした私

庵 では改めまして、どんなマンションをお探ですか？

洋美 高級マンションです

庵 ザックリすぎる

洋美 とにかく高級なら何でも良いんです。今まで実家暮らしだったんで、頭金と引越し代くらいは貯金あります。多分。ちなみに、年収は約300万です

庵 安っ！？あ、すみません。驚きすぎてつい本音が。え、300万？

洋美 はい。月収で言えば手取り20万ちょい……

庵 そ、それで、高級マンションを？

洋美 はい。これで、高級マンションを……

庵 いやいやいや、普通のアパートとかにしておきましょう？都内でも月々7、8万もあればそれなりの所には

洋美 いいえ。高級マンションが良いんです。月々の返済15万までは出せます

庵 正気ですか？

洋美 正気です。いいえ、狂ってます

庵 どっちー？

洋美 どっちもです。正気のまま狂ってます私。だからですね、もう疲れちゃったんです人生。だから

庵 そんな！死なないでください……

洋美 話を聞いてー。だから私、この息苦しさから解放される方法を必死に考えて考えて考えて、そして、気がついたんです。そもそも最初から、何も期待しなければ良いのでは？と

庵 ほう

洋美 努力が報われる事、誰かに気にかけてもらえる事、自分より努力していないのに愛されている誰かの存在。それらに捕らわれているから辛いのであって、それら欲望や贅沢を振り切って解脱する事さえできれば、私も楽になれるのではないかと思ひまして

庵 贅沢、ですか

洋美 はい。贅沢です。生きてるだけでも幸せ者なのに、それ以上を望むだなんて。知ってますか？贅沢って、贅が、沢山あるって意味なんですよ

庵 あれ、馬鹿にされてるのかな？

洋美 贅。つまり、おごり。不必要なもの。無駄なもの。生きて行く上で必要ながない余計なもの特にサバンナでは……

庵 ーこ、日本だぞ

洋美 むしろ、贅なんかがあるからこそ、人は息苦しくなっていると思うんですよね私。例えば私、自分の事をずっと、醜いアヒルの子だと思ってきたんですけど

庵 え、人間ですよ？

洋美 アンデルセン童話の、醜いアヒルの子みたいに、今は醜いアヒルの子でも、いつかは美しい白鳥となって、本当の仲間達と一緒に、幸せに向かって羽ばたけるのではないのかって

庵 人間ですって

洋美 それだけを頼りに今まで頑張ってきたのに……私は、ただの、汚い、普通の、アヒルの子だったのです

庵 人間の子ですよ……(飽きてきた)

洋美 今更そんなクソつまらない事実、受け入れられると思いますか？がっかりですよ。今までの人生を返してくれって感じですよ。でも、思ったんです。そもそも、こんな童話さえ知らなければ、それ以前に、期待とか希望とか夢とかそういうの？最初から持っていないければ、こんなに苦しむ事もなかったのでは？と。だから、私、距離を置く事にしたんです。贅と

庵 はあ

洋美 贅と距離を置いて、欲望とおさらばする事。これからも、生きていく為に。これが、私の願いです

庵 そうですか。そりゃあ大変だ。でも津島さん。贅と距離を置きたいなら、なんで高級マンションなんですか？仕事を辞めて、その辺の河川敷に段ボールハウスでも建てて、楽しいホームレスごっこにでも興じれば良いじゃないですか

洋美 酷い奴を雇っているなあこの不動産会社は！？いいえ。それはしません。何故なら私は、姉と違ってかまっちゃんでありませんので

庵 私、津島さんのお姉さん、知らないんですけど

洋美 河川敷に段ボールハウスなんか建設しちゃったら、みんなから心配されちゃうじゃないですか？そんなかまっちゃんでちゃんみたいなさ、私には無理です……

庵 はあ

洋美 だから私考えたんです。最善策を。そして、導き出したんです。高級マンションを購入するという最適解を。高級マンションに暮らして、半強制的にローン地獄に陥って、最低限の生活費で細々と暮らす。これで贅沢とは距離を置きつつ、高級マンションのお陰で誰にも極貧生活を悟らせない。どうですか？素晴らしい。

庵 素晴らしいけど……だからどうですか。まあ、そういう事なら良いですよ。とびっきりのマンションを、ご紹介させていただきます

洋美 本当ですか！はい本当です。私もこれが、天島庵としての最後の仕事になると思いますので。誠心誠意、努めさせていただきます

洋美 あ、そう言えば、結婚されるんですってっけ？おめでとっついでいいます

庵 ありがとうございます……でもですね津島さん。この世界は、津島さんが思っている程、残酷ではないんですよ。私も、今までいっぱい辛い事がありましたけど、そ

野美 けれども今は、見ていただいて分かる通り、幸せ、いっぱいです……ぶふっ(幸せ笑い)  
はっ倒してえ〜

庵 そうー幸せは、頑張っていれば、いつか必ず辿り着くものなのです！だから津島さん。しばらく距離を置いて、頭の中がすっきりしたら、また、よりを戻してあげてくださいね？

野美 より？誰とですか？

庵 誰、っていうか、ほら、さっき津島さんが言ってたあれ！贅沢……いや、贅とです贅！

野美 はあ

曲。照明変化。オープニング。

柳子、佳子、美鈴、亜耶、登場。庵と共にタイトルテロップを出す。

## 『ぜいはあ、』

柳子、佳子、退場。美鈴、同じく退場しようとする亜耶を呼び止める。

亜耶、立ち止まるも、やがて小走りに退場。美鈴、重い足取りで退場。

2

庵 流石に、津島さんが想像されている様な高級マンションのご紹介は難しいんですけど、津島さんが宜しければなのですが、所謂、いわくつきの物件でしたら、直ぐにご紹介可能です。通常よりお安くなりますし、いや、お安くなってしまっんですけど、その分、いわくつきの事故物件ですから。まさに、津島さんがおっしゃられていた、外から見たら極楽・内から見たら地獄！ご期待に添えると思います！どうやらですね、本当に出るらしいんですよ。幽霊……

庵、退場。

野美、ソファーに座っている。

【2019年9月・ロマネスクタワー・305号室】

野美 あー、極楽極楽……いけない。贅沢は敵贅沢は敵贅沢は敵贅沢……

野乃花、登場。

野乃花 先輩？大丈夫ですか先輩！？

野美 うおっ！？あ、野乃花……うん。全然平気大丈夫何でもない何でもない

野乃花 全然大丈夫そうには見えませんでしたよ？

野美 気にしないで。良くある事だから

野乃花 もう。先輩は、いつもそう



洋美 いつも？

野乃花 大丈夫とか、平気とか、何でもないとか。本当は、全然大丈夫じゃなくせに。先輩は、もっと素直になった方が良いです。後輩の私なんかに、言われたくないかもですけど

洋美 ありがとう。でも、本当に大丈夫だから。私、強い女だし

野乃花 そうですね。先輩は、私なんかと違って強い女です。でも、だからこそ私、心配なんです！

洋美 野乃花

野乃花 私、先輩の事、本当に感謝してゐんです。だって、私がここまで仕事を頑張つてこられたのは、先輩が、いつも私を庇ってくれたからです。こんな、仕事も何も出来ない、ドジでノロマな亀、さつさと見捨てちゃえば良かったのに……  
洋美 そんなの、あんたの上司なんだから当たり前でしょ？

野乃花 当たり前なんかじゃないです。他の人達は、先輩程優しくなかったです

洋美 別に私も優しくなんか

野乃花 いいえ、優しいです。津島先輩は、優しい。ほら、私、こんなだから、女の子から嫌われやすくて。でも、先輩だけは他の女どもと違いました。こんな私にも、分け隔てなく接してくれて、私、どれだけ救われたか。だから、絶対に幸せになつてほしいんです先輩には。いや、幸せにならなくちゃ駄目なんです先輩は！

野乃花……ごめんなさい。私、あんたの事、少し誤解してた

野乃花 誤解ですか？

洋美 ううん。気にしないで

野乃花 はい。あ、じゃあ私、そろそろ行きますね

洋美 え、もう行くの？

野乃花 はい。人を待たせてるんで

洋美 そつか。でも、本当にありがとうね。こんな立派なインテリア、ただ同然で譲ってくれて

野乃花 良いんです。いつもお世話になってますから

洋美 にしてもこれ、え？本当に大丈夫なの？殆ど新品じゃない？

野乃花 大丈夫です。私の叔父も、先輩のお役に立てて、きつと天国で喜んでます

洋美 あれ、そういう経緯だったっけ？

野乃花 え？あ、はい。あれ？もしかして、そういうの、ダメな人ですか？

洋美 い、いや、全然。むしろ、この部屋自体がそんな感じだし

野乃花 えー！？こゝ、事故物件なんですか！？

洋美 まあ、なんか、たまに出るらしくって

野乃花 え、怖い。私、そういうのダメな人なんですよー

洋美 お、おう

野乃花 というわけで、今度こそ行きますね。幽霊も怖いし

洋美 お、おう

野乃花 先輩、グット・ラック

洋美 お、おう

野乃花、退場。

洋美 幸せ。かあ……………

洋美、溜息を吐く。佳子(回想)、登場。

佳子 また溜息？

洋美 ……………

佳子 溜息なんか吐いて。幸せが逃げちゃっても知らないんだから

洋美 ……………

佳子 ねえ洋美。私さ、そろそろ…………戻っても、良いかな？

洋美 ……………

佳子 私、また、家族4人で暮らしたい。お父さんと、お母さんと、洋美と！

洋美 ……………

佳子 お父さんもお母さんも、怒って、は、いなかったけど…………いや、怒ってたか。

洋美 あれは。ねえ、まだ怒ってるかな？流石にもう、時効かな？

佳子 知らないよ

洋美 顕吉さんも死んじゃったし

佳子、泣く。

佳子 美鈴も、結婚するって言うし、顕吉さん死んじゃったし…………私、またひとりぼ

つちになっちゃった…………これも、天罰なのかな？私はただ、信じただけなのに

洋美 美鈴んとこ行けば良いじゃん

佳子 行けるわけじゃないでしょう？！私、あちらのご両親に、良く思われてないし

洋美 自業自得でしょ

佳子 そんなの私が一番分かってるよ…………？

洋美 ……………

佳子 ……………ごめんなさい…………

洋美 ……………怒ってないと思うよ

佳子 ……………？

洋美 父さんも母さんも、多分大丈夫だよ。お姉ちゃんの事大好きだし。むしろ、あれ

からずっと心配してたよ。お姉ちゃんと美鈴の事

佳子 ……………そっか(嬉しそう)

洋美 ……………うん

佳子 ありがとう。洋美は、やっぱり優しいね

洋美 別に優しくなんか



亜耶 うん  
洋美 別に良いけど……え、いつ？  
亜耶 あ、あのね、実は  
洋美 ん？

洋美、不穏な空気が漂っている事に気がつく。

洋美 え、何これ……？  
亜耶 洋美お姉ちゃん？  
洋美 ごめん。かけなおす  
亜耶 大丈夫なの？あ

洋美、LINE通話を切る。亜耶、退場。

洋美 何？何なのこの禍々しいオーラは……まさか、本当に、幽霊？  
チヨ声 うううう……うううう……  
洋美 何か聞こえる！？  
チヨ声 したい……ううう……したいよう……ううう……  
洋美 何？何がしたいの？  
チヨ声 ……っくん！  
洋美 え、な、何て？  
チヨ声 くん！……結婚……！  
洋美 ケツコン……はい？  
チヨ声 結婚したいよ……う……！……！

チヨ太郎、壁の中から登場。

洋美 ……  
チヨ ふうふう……ぐすん……結婚したい……結婚したいよう……  
洋美 ……  
チヨ 結婚したい……結婚したいよう……  
洋美 ……  
チヨ 結婚し  
洋美 おい  
チヨ あ、はい？  
洋美 あの……え、どちら様ですか？  
チヨ ……え？  
洋美 いや、え？じゃなくて  
チヨ 僕の事、見えるんですか？

洋美 はい

チヨコ え、マジで？

洋美 マジです。はい

チヨコ あー、そっかー。見えちゃうのかー。そりゃまいったなー

洋美 あの

チヨコ はい

洋美 え、どうやって、入ったんですか？

チヨコ え？

洋美 この部屋

チヨコ どの、どうやっても何も……最初から居ました

洋美 はあ？

チヨコ 最初から居ました。ずっと、ここに、最初から

洋美 最初って、いつ？

チヨコ 最初は最初です。最初からです。僕、この部屋の、地縛霊なんで

間。洋美、チヨコ太郎の頬をぺちぺちする。

チヨコ あはは。あはは。あはははは

洋美、スマホを手に取る。

チヨコ どうです？結構モチモチしてたでしょ？

洋美、警察に電話しようとする。

チヨコ ちよいちよいちよいちよいちよーい！……！

チヨコ太郎、必死にそれを止める。

洋美 ちよとと

チヨコ 今、どこに何をしようとしたのかな？

洋美 普通に、警察に通報ですけど

チヨコ そんな馬鹿な事はお止めなさい！

洋美 はあ？

チヨコ 僕は地縛霊ですよ？そんな馬鹿な事をしたら、キチガイ扱いされるのは、僕で

洋美 別にそれで良いですけど

チヨコ ちよいちよいちよいちよいちよーい！……！

洋美 うるせえ！

チヨコ 考え直した方が良い

洋美 ………

チヨコ (イケボで) 考え直せ。女

洋美 ………(通報しようとする)

チヨコ ちよいちよいちよいちよいちよいち……!

チャイム音。

洋美 (舌打ち) はーい

チヨコ 舌打ちの仕方が悪人のそれ

洋美、玄関へ。

洋美声 ………亜耶ちゃん?

亜耶声 洋美お姉ちゃん

洋美声 えっと……

亜耶声 ………邪魔します

洋美声 え? ちよっと

亜耶、早歩きで登場。それを追いかけるように洋美、登場。

亜耶 うわー、凄い。本当に高級マンションだー

洋美 亜耶ちゃん、勝手に

亜耶 家具もちゃんとある。凄い

洋美 亜耶ちゃん!

亜耶 私、家出してきた……!

間。

洋美 ………家出?

チヨコ あら

亜耶 (頷く) だから、ここに暫く居させてください。お願いします

洋美 ………えっと……駄目

亜耶 え?

洋美 駄目。うん。今は(チヨコ太郎を見る)色んな意味で、駄目

亜耶 そんな……

チヨコ 僕は、一向に構いませんよ?

洋美 ちよっと黙れ

亜耶、背負っていたリュックの中から、カエルのパペットを取り出し、右手に嵌める。

亜耶 (カエルを操って) オイラからもお願いするぜ

洋美 はい？

亜耶 (カエルを操って) お願いだよ姉御。亜耶の事、置いてやってくれよ

洋美 何これ？

亜耶 (アドリブで名前をお願いします) です

洋美 (アドリブで名前)？

亜耶 (カエルを操って) そうだぜ。オイラの名前は(アドリブで名前)だ！亜耶の、唯一の親友ってやつだぜ。かれこれ、20年来の付き合いだぜ(亜耶に戻って)(アドリブで名前)……………やー

亜耶、洋美にカエルのパペットを見せつける。洋美、カエルのパペットを優しくヒンタ。

亜耶 (カエルを操って) あ——————！……………？

洋美 亜耶ちゃん。真面目にやって

亜耶 (カエルを操って) ふざけるな。亜耶はいつでも真面目だぜ

洋美 亜耶ちゃん

亜耶 (カエルを操って) 金だつてちゃんとあるんだぜ  
洋美 金？

亜耶、リュックから通帳を取り出し、洋美に見せる。

洋美 ！？どうしたの、こんな大金……………

亜耶 (カエルを操って) 遺産だぜ  
洋美 遺産？

亜耶 (カエルを操って) 亜耶の、お父さんだった人の遺産だぜ

間。何とも言えない空気が漂う。チヨ太郎、亜耶のリュックから、気になるものを発見する。

チヨ (亜耶に) あのー、すみません

亜耶 はい？……………ひいっ！？

洋美 おま

チヨ つかぬ事をお伺いしますが(リュックの中を指さして)これ、何ですか？

亜耶 ！、「これ？

洋美 ごめん亜耶ちゃん。そいつは

亜耶 これは(リュックの中から)ニール袋を取り出し(お菓子  
チヨ オカシ？オカシとは何ですか？

亜耶 ひっ  
洋美 相手しなくて良いから  
亜耶 でも  
チヨコ ねえ、オカシって？オカシって何？何！？  
亜耶 うっう……  
洋美 ちよつと、この子、怖がつてるでしょ！？  
チヨコ あ、これは失敬。つい熱くなっちゃいました僕とした事が……  
亜耶 何これ。怖い(泣く)  
洋美 ああつ。何か、ごめん……  
亜耶 え、何これ？え？幽霊？  
洋美 え？  
亜耶 凄く怖いんですけど……  
洋美 (亜耶ちゃんには、こいつ)チヨコ太郎)が、幽霊に見えるの？  
亜耶 (頷く)  
洋美 そうなの？どつからどつ見たって、ただの小太りのおっさんじゃない？  
チヨコ 失敬だな君は  
亜耶 おっさん？そいつ、おっさんのの？  
洋美 どつからどつ見てもそつでしょ？  
チヨコ まあまあまあ。落ち着きなさい2人共  
洋美 は？(ガチギレ)  
チヨコ 怖い。えーつと、亜耶さん、でしたっけ？  
亜耶 (カエルを操って)(アドリブで名前)だぜ  
チヨコ わーお(アドリブで名前)さん。貴方には僕が、どんな風に見えていますか？  
洋美 (カエルを操って)なんか、どす黒い、人型の排気ガスみたいに見えるぜ  
それは怖い  
亜耶 (カエルを操って)ああ。滅茶苦茶怖いぜ  
チヨコ とまあ、亜耶さん  
亜耶 (アドリブで名前)  
チヨコ (アドリブで名前)さんの話から分かる通り、僕は、人によって見え方が変わるんです。洋美お姉ちゃんさんの様にただのおっさんに見えたり  
洋美 お姉ちゃん言っの止める  
チヨコ (アドリブで名前)さんの様に、影と声しか認識出来なかったり  
亜耶 それは、私達に靈感があるって事ですか？  
洋美 何でちよつと嬉しそつなの？  
チヨコ お2人に靈感があるかどうかは分かりませんが、まあ少なくとも、お2人が、僕に近しい存在であるという事は分かります  
亜耶 近しい存在？  
チヨコ この世よりも、あの世に近しい存在という事です  
亜耶 ふーん(カエルを操って)そつなんだ



洋美 ……

チヨコ ……ところで、オカシって何なんですか？

亜耶 (カエルを操って) お菓子はお菓子だぜ

亜耶、リュックの中のビニール袋から、お菓子を取り出す。

亜耶 (カエルを操って) うんしょ。うんしょ。ポテチだろ？ラムネだろ？ガムだろ？チヨコレートだろ？

チヨコ それ!!!

亜耶 (カエルを操って) あ？

チヨコ それ(チヨコレート)、僕の事を最初に見つけてくれた人が、よく食べてたんです

亜耶 (カエルを操って) (チヨコレートを？)

チヨコ チヨコレートって言うんですね、それ

亜耶 (カエルを操って) ああ。食べるか？

チヨコ いえ、僕、地縛霊なんです

亜耶 (カエルを操って) あそっか

チヨコ すみません

洋美 ねえ、亜耶ちゃん

亜耶 (カエルを操って) 何だよ？

洋美、亜耶の右手から、カエルのパペットを奪う。

亜耶 あっ！

洋美 どうして、家出して来たの？

間。

亜耶 聞いても、よく分からないかも……

洋美 別に良いよ。亜耶ちゃんの言葉で、ちゃんと説明して？

亜耶 うん………実はね

【前日・金田家】

亜耶 (カエルを操って) ニコは何処？オイラは誰？………昨日はバイトがお休みで、

一日中暇だったので(アドリブで名前)を使って、アイデンティティの確立について考えていました

洋美 お、おう

亜耶 (カエルを操って) 分からない。分からないんだぜ………そうだ！(アドリブで別の名前をお願いします)に聞いてみるんだぜ！

洋美 (アドリブで別の名前)?

亜耶 (アドリブで名前)の双子の妹です

洋美 お、おう

亜耶 (カエルを操って)あれー?(アドリブで別の名前)ー?おかしいな……いつもはこの辺に居るのに……あれ?マジで居ない?あれ……?

柳子、ウキウキしながら登場し、ドアをノックする(マイム)

柳子 コンコンコン。亜耶。入っても良い?

亜耶 はっ(カエルを操って)うるせえババア!入って  
柳子 がちゃっ

亜耶 (カエルを操って)来た!?!ふざけんなババア馬鹿!何で勝手に入って来るんだよ!?!

柳子 ちゃんとノックした上に許可も取ったわよ?

亜耶 (カエルを操って)判断が早すぎる!人の話は最後まで聞けよババア!

柳子 ごめんちゃい。ねえ、亜耶。何か、気づかない?

亜耶 (カエルを操って)はあ?

柳子 ヒント1!お母さんの趣味は、断捨離です

亜耶 (カエルを操って)だから?

柳子 ヒント2!ほらあ、よく見てー?亜耶のお部屋、昨日より少し、広くなってると思わない?!

亜耶 (カエルを操って)……まさか

柳子 ヒント3!カエルさんです

亜耶 (アドリブで別の名前)……?

柳子 おやおやおや。もう、気づいちゃったかな?

亜耶 (アドリブで別の名前)……何処にやったの?

柳子 捨てました

亜耶 え?

柳子 亜耶の為に、捨てました

亜耶、膝から崩れ落ちる。

亜耶 (アドリブで別の名前)……

柳子 亜耶……(亜耶を抱き締める)ごめんね。辛いよね?苦しいよね?(アドリブで別の名前)も、(アドリブで名前)も、亜耶の大切なお友達だもんね。でもね、

亜耶。この世界には、私達よりも貧しくて辛くて苦しい思いをしている人達が

沢山居るの。だから、亜耶。お母さんと一緒に、この悲しみを乗り越えよう?私

達、たった2人だけの親子なんだから……

え、待って待って待って。ちよっと待って?!

亜耶

柳子 何か？  
亜耶 何か？じゃない。え、あの……え？私がおかしいのかな  
柳子 亜耶はおかしくない！  
亜耶 だよ  
柳子 亜耶……（亜耶を抱き締めようとする）  
亜耶 いらぬいそついうのいらぬい  
柳子 えー？  
亜耶 えー？じゃない！あのさお母さん。私、全然分らないんだけど？  
柳子 分らない？何が？  
亜耶 （アドリブで別の名前）を捨てた理由  
柳子 だから、亜耶の為に、捨てました  
亜耶 （アドリブで別の名前）を捨てる事が、どうして私の為なの？  
柳子 それは……亜耶の為だからよ  
亜耶 答えになつてない  
柳子 でもね、亜耶。この世界には、私達よりも貧しくて辛い思いをしている  
人達が  
亜耶 話逸らすの下手か！？酷いよお母さん。（アドリブで別の名前）が私にとってどん  
な存在か、お母さん、よく分かってるでしょ？  
柳子 ええ、分かっているわ。お母さん、よく分かってる  
亜耶 じゃあ、どうして  
柳子 だから、捨てました

問。亜耶、頭を抱える。

亜耶 お母さんは、どうして……  
柳子 ……お母さんは、いつでも、亜耶の味方よ？  
亜耶 ……もう良い  
柳子 もう良いの？  
亜耶 良い。私、出て行く  
柳子 出て行くの？  
亜耶 出て行く！（カエルを操って）ふざけんなよ断捨離ババア！  
柳子 ま、待って！出て行くなら、お母さん、お弁当作るから  
亜耶 いらねえよバーカ……あ！（カエルを操って）いらねえよバーカ……  
柳子 亜耶……  
亜耶 もう、何も信じない………！

亜耶、リュックを背負ってダッシュで逃げる。回想終わり。

【2019年9月・ロマネスクタワー・3005号室】

亜耶　そして、私は近場のネットカフェで一晩頭を冷やしつつ、今後どうするかを(アド  
リブで名前)と会議した結果、洋美お姉ちゃんのマンションに、居候する事を決  
めたのです

洋美　勝手に決めるな

亜耶　ええ？駄目？

洋美　駄目。確かにちよつと可哀想だったけど。今すぐお家に帰りなさい

亜耶　せめて一週間！いや、5日！いや、3日だけでも

洋美　駄目。絶対に、駄目

亜耶　どうして？

チヨコ　そうですよ。少しくらい

洋美　お前は黙ってる

亜耶　ほら、チヨコ太郎も良いって言ってるじゃん

洋美　チヨコ太郎？

亜耶　(チヨコ太郎を指し示して)こいつ。チヨコに興味を示したからチヨコ太郎

チヨコ　やったー。チヨコ太郎だー

洋美　勝手に名付けるなお前(チヨコ太郎に)も喜ぶな

チヨコ　いやあ、名前とか、死んでから初めて戴いたので多分

洋美　あのね、亜耶ちゃん

チヨコ　無視！

洋美　確かに意味は分からなかったけど、事情はよく分かった。でも、今日の所はとり  
あえず帰って。私も色々準備があるし

亜耶　大丈夫！私、床でも何処でも寝れるから

洋美　そういう事じゃなくて。てか、何処でも眠れるなら、それこそ一週間ネットカフェ  
に泊まれば良いじゃない。お金もいっぱいあるんだし

亜耶　それは(カエルを操ろうとする)

洋美　カエルに頼るのは止めなさい。ねえ、どうして、うちに来たの？

間。

亜耶　ネットカフェだと……

洋美　ネットカフェだと？

亜耶　……お母さんが、見つけにくいかなあって……

柳子　亜耶………！

洋美　やっぱりね。本気で家出するつもりなかったんじゃん

亜耶　そういう訳じゃ

洋美　本気じゃないなら、ますますお断り致します

亜耶　そんな

柳子　待って洋美ちゃん。亜耶は亜耶なりに、いっぱいいっぱい考えた結果、この結論を  
出したんだと思うの

洋美 え？  
 亜耶 お母さん  
 洋美 え？  
 柳子 どうかお願い。もっと、亜耶の話を聞いてあげて？  
 亜耶 良いよお母さん。私が悪いの  
 洋美 え、待って待って待って。ちょっと待って？  
 柳子 何か？  
 洋美 何か？じゃなくて。え、あの……え？私がおかしいのかな……  
 柳子 洋美ちゃんはおかしくない！  
 洋美 それは重々分かってます！  
 亜耶 ……お母さん……？（カエルを操って）いつから「ここ」？  
 洋美 今気づいたのかよ  
 柳子 ついさっきからよ。えっと、ドアが開いてたから、勝手に邪魔させて戴きました  
 洋美 え？  
 亜耶 （カエルを操って）通りで回想シーンのお母さん、なかなか消えないなあって思っ  
 たんだぜ  
 洋美 ちよっと  
 千ヨコ あの、初めまして。千ヨコ太郎です  
 柳子 おい  
 洋美 あら？何処からともなくおっさんの声が  
 千ヨコ はい。僕の声です。初めまして、亜耶さんのお母さん  
 柳子 初めましてー。何処に居るか分からないけど  
 亜耶 （カエルを操って）お母さんには千ヨコ太郎、見えないのか？  
 柳子 ええ。でも、声は何となく聞こえるわ  
 亜耶 （カエルを操って）ふーん  
 洋美 あの、柳子さん  
 柳子 ねえ、亜耶  
 亜耶 （カエルを操って）（アドリブで名前）だぜ  
 柳子 （アドリブで名前）、（アドリブで別の名前）を捨てられた時、貴女、どう思った？  
 亜耶 どう思ったって……（カエルを操って）もちろん、100%悲しかったぜ  
 柳子 嘘、おっしやいー！  
 亜耶 （カエルを操って）嘘じゃねえぜ！本当だぜ……！  
 柳子 じゃあ、どうして、本気で悲しまないの？  
 亜耶 （カエルを操って）はあ？  
 柳子 （アドリブで名前）は引っ込んでなさい！  
 柳子、カエルのパペットを投げ飛ばす。

亜耶 （アドリブで名前）……！？

柳子 待つて。行かないで亜耶。行くならお母さんを倒してから行きなさい  
亜耶 ううう。意味が分からない……………やあ…!(柳子と相撲を取る)  
柳子 大丈夫。お母さんも流石に、見切り発車よ  
チヨコ のこったのこった!のこったのこった!  
洋美 あの、ここ、私のうちなんですけど……………  
柳子 ええい!  
亜耶 あう!

柳子、亜耶を投げ飛ばす。

チヨコ ふんふん投げで  
洋美 (チヨコ太郎を叩く)  
チヨコ すみません  
亜耶 (アドリブで名前)……………(アドリブで別の名前)……………  
柳子 亜耶、どう?悔しい?  
亜耶 (頷く)悔しい  
柳子 嘘、おっしやい!!  
亜耶 嘘じゃない  
柳子 嘘。本当は、悔しくとも何ともない。そうでしょう?  
ううう……………  
洋美 柳子さん、そろそろ、その辺で  
柳子 洋美ちゃんは黙ってて。これは、私達、金田家の問題なの  
洋美 はい。まあ、ここは私のうちなんですけどね、はい  
亜耶 私、どうしたら良いの……………?  
柳子 どうしたら良いと思うの?..  
亜耶 分からないよ……………  
柳子 分かるわよ。だって、亜耶はもう大人でしょう?今年でもう、25歳でしょう?  
チヨコ ええ!…?見えない  
洋美 黙ってろ(チヨコ太郎を叩く)  
チヨコ すみません  
亜耶 25歳だけど……………分からないよ……………  
柳子 そんな事ない。本当は、分かっているはずよ。だって、亜耶は昔から、賢い子だったじゃない。お母さん、分かっているわ。お母さん、よく分かっている  
亜耶 無理だよ。買い被りすぎだよ……………  
柳子 亜耶は、あれもこれも大切に過ぎなのよ。だから、本当は分かり過ぎるくらい分かっているくせに、分からないと思ひ込んでやうの。(アドリブで名前)や(アドリブで別の名前)で誤魔化しちゃうの。分からないふりをする為に  
亜耶 そうなのかな?  
柳子 そうよ。だから亜耶、お母さんと一緒に、断捨離しましょう!..

亜耶 ……え？

柳子 お部屋の乱れは心の乱れ。良いわよく断捨離。何もかもがすっきりするし、無駄な物を捨てる事で、本当に大切なモノも見えてくるし

亜耶 ヤダ

柳子 ……ヤダ？

亜耶 断捨離は、ヤダ。お母さんみたいなのは、なりたくない

間。柳子、俯く。

洋美 ちよつと、亜耶ちゃん

亜耶 私も変なのかもしれないけど、お母さんだって十分変だよ。何でもかんでも断捨離断捨離して。そうやって、お父さんの事も、簡単に断捨離して

洋美 亜耶ちゃん！

柳子 (笑つ) そうね。確かにそう。お父さんも、断捨離しちゃったわね

亜耶 そうだよ。お父さんの物、全部！写真もホームビデオも、お父さんの生きてた

証、全部全部！

柳子 全部じゃないわ。(アドリブで名前)がまだ、残ってるでしょう？

亜耶 (アドリブで別の名前)は捨てたじゃん！

柳子 同じのが2つあったって仕方がないでしょう？

亜耶 同じのじゃない！全然違う！

柳子 どこが？

亜耶 どこがって、汚れ具合とか

柳子 (笑つ)何を言ってるの？見分ける事もできないくせに

亜耶 え？

柳子 あの子(カエルのパペット)、本当に、(アドリブで名前)なの？

亜耶 まさか……………！

亜耶、投げ飛ばされたカエルのパペットの所に行こうとするも、柳子から足止めをくらう。相撲再開。

洋美 ちよつと！？

亜耶 畜生……………ん畜生……………

柳子 ほらね、貴女はいつもそう。自分の大切なモノが何なのか、何一つ分かっていないの。自分が信じたモノが何なのか、何一つ知ろうとしないの。こんなんじゃあ、お父さんだって、死んでも死にきれないんだから！

亜耶 おおおおおお……！

チヨコ や、止めろーう！

チヨコ太郎、亜耶と柳子の間に入る。亜耶、咳込み、チヨコ太郎から離れる。

亜耶 ゲホゲホ！排気ガス臭え！？  
チヨヨ え、マジで？  
亜耶 いや、あの、臭くはないんだけど、なんか、雰囲気  
チヨヨ しゅん(落ち込む)  
亜耶 あ

亜耶、カエルのパペットに駆け寄り、よく確認する。

亜耶 やっぱり(アドリブで名前)じゃん……………(カエルを操って)おい、変な言いがかりつ  
けてんじねえぞこの断捨離ババア！  
柳子 そうね。この子は、(アドリブで名前)ね  
亜耶 (カエルを操って)どうして嘘なんか  
柳子 信じたくせに  
亜耶 (カエルを操って)あ？！  
柳子 自分が信じた事よりも、私が言った事、信じたくせに

間。

チヨヨ ……………あのー  
洋美 空気読めよ  
チヨヨ すみません。でも、気になるんでやっぱりあのー  
洋美 おい  
チヨヨ 一体、何があったんですか？  
亜耶 何が？  
チヨヨ さつきから意味深なワード、ちよいちよい飛び交いすぎなんですよ。気になるじ  
やないですか？僕だけ部外者なんですよ？その所、どう思いますか洋美さん  
洋美 知らねえよ  
チヨヨ 冷たい……………  
柳子 話してみたら？  
亜・洋 え？  
柳子 亜耶の事、今までの事、今、亜耶が考えている事。とにかく、全部話してみたら？  
亜耶 そんな、簡単に言われても  
チヨヨ 僕、聞きたいです！お願いします！  
亜耶 ……………(カエルを操って)上手く、話せないかもしれないぜ？  
チヨヨ 全然大丈夫です！僕、今、暇なんで  
亜耶 洋美お姉ちゃんは？  
洋美 ……………良いよ。話しなよ。私も今、暇だし  
亜耶 ……………ありがとう



照明変化。美鈴、登場。

【亜耶が考えている事】

亜耶 えっと……まず、何処から始めれば良いのか……

美鈴 私達の出会いから、つてのは、どうかかな？

亜耶 ！？みーちゃん……

洋美 え？

柳子 良いわね。とても分かりやすいと思うわ

佳子 亜耶ちゃんと美鈴の出会いという事は、小学校の入学式からね

亜耶 佳子さん……

洋美、何か突っ込もうとしたが、止める。

亜耶 小学校の入学式。あの日、私は、とても緊張していました。緊張と不安で胸が

いっばいで、お母さんの手を握りたかったけど、そんな事をしたら、みんなから、

小さい子みたいだつて笑われてしまうんじゃないのかつて、思つて

柳子 亜耶！？駄目でしょう。カエルさんなんか持つてきて

亜耶 え？(自分の手を見る)あ

柳子 亜耶はこれから小学生になるんだから。カエルさんは、駄目よ？

亜耶 そんな

柳子 お母さんが、預かつつといてあげる

柳子、亜耶からカエルのパペットを奪おうとする。亜耶、思わず大きな声を出す。

亜耶 あ

柳子 亜耶

亜耶 まずい。小さい子みたいな声が出てしまった。みんな、私の事を見る？嫌だ。

柳子 恥ずかしい。見ないで！(柳子の後ろに隠れる)

ちよつと

亜耶 見ないでー！……私の自意識過剰さは、この頃から既に限界突破していた

柳子 もようです。ううう……

亜耶 大丈夫よ、亜耶。誰も、亜耶の事なんか見ていないわ

柳子 本当に？それはそれで傷つくけど……確かにお母さんの言う通り、誰も私の

事なんか見ていませんでした。みんなから、見られていたのは……

亜耶、美鈴と佳子を見る。美鈴と佳子、俯いている。

亜耶 とても、可愛い子になって、とても、綺麗なお母さんになって、思いました

亜耶、柳子と佳子を見比べて溜息を吐く。

柳子 何よ？

亜耶 何でもない。みーちゃんも佳子さんも、あんなに可愛いし綺麗なのに、何故かずっと、暗い顔をして俯いていて、近くを通りかかったクソババア達は、みーちゃんと佳子さんをチラチラ見て、うちの子、大丈夫かしら？仲良くなっちゃったら

どうしよう？最悪。とか何とか、子供の私から見ても分かるレベルのクソ発言を繰り広げていて

柳子 どうしたの、亜耶？

え？

柳子 もしかして、あの子(美鈴)とお友達になりたいの？

亜耶 え？どうして？

柳子 だって、ずっとあの子の事を見てるから

お母さんは私の事をよく分かってる。お友達になりたいかどうかはまだ分かっていなかったけど、私は、みーちゃんに話しかけてみたい気持ちでいっぱいでした話しかけてみたら？

亜耶 え？良いの？

柳子 駄目なの？

だって……

柳子 亜耶が決めた事なら、お母さん、大賛成よ

亜耶、カエルのパペットを右手に嵌めたまま、美鈴に話しかけに行く。

亜耶 あの……

美鈴 ？

亜耶 あ

佳子 はじめまして

亜耶 あ

ほら、美鈴、ご挨拶は？

美鈴 ……

亜耶 あ、うっ……

美鈴 カエルさん？

亜耶 え

美鈴 カエルさん……はじめまして

佳子 美鈴、そっぢじゃないでしょっ？

亜耶 (カエルを操って)はじめましてだぜ！

美鈴 ！？

佳子 あら

亜耶 (カエルを操って)オイラの名前は(アドリブで名前)だぜ！よろしくだぜ！

美鈴、笑う。亜耶も笑う。柳子、佳子に挨拶をする。

亜耶 これが、私とみーちゃんの出逢いでした

美鈴 あの時、私、凄く嬉しかったんだよ？私、幼稚園も保育園も通ってなかったから、  
同じ年の女の子が話しかけて来てくれたの、亜耶ちゃんが初めてで  
そうだったんだ

美鈴 うん。それまでは、お母さんと、お祖父ちゃんと、お祖母ちゃん。あと、洋美お姉  
ちゃんとか、喋った事なかった

洋美 まあ、殆ど妹みたいなものだったしね

チヨコ なるほど

亜耶 私とみーちゃん。それから、佳子さんとお母さん……相川家と津島家は、  
家族ぐるみのお付き合いとなりました。私とみーちゃんは大親友。お母さんと  
佳子さんは、ママ友？先輩と後輩？そして、洋美お姉ちゃんは、私達2人のお姉  
ちゃんとなりました  
なつた覚えはないけどね

洋美

柳子と佳子、テーブルで談笑している。

佳子 良いんですか？こんなに沢山(お菓子)戴いちやって

柳子 良いのよ。うっかり買いすぎちゃっただけだから

佳子 すみません……

柳子 良いのよ。こんなにあったって、亜耶が虫菌になっちゃっただけだから

佳子 ありがとうございます

柳子 他にも、必要なモノがあったら、何でも言っってね？

佳子 はい……

柳子 あ、そつだ。今度の家族旅行の件だけ……

美鈴、カエルのパペットを持ってくる。

美鈴 じゃーん

亜耶 (カエルを操って)あー！？誰だそいつはー！？

美鈴 (アドリブで別の名前)

亜耶 (アドリブで別の名前)？

美鈴 うん。(アドリブで名前)の、双子の妹！(カエルを操って)私、(アドリブで別の名  
前)よろしくね、(アドリブで名前)

亜耶 ああ(カエルを操って)よろしくどうぞ!(アドリブで別の名前)

亜耶と美鈴、笑い合う。

亜耶 え、どうしたのその子?

美鈴 へへ。亜耶ちゃんのお父さんに買ってもらったんだ

亜耶 私のお父さんに?

美鈴 うん!(アドリブで名前)も、ひとりぼっちじゃ寂しいだろうって

亜耶 ふーん

佳子、思い詰めた表情をしている。

柳子 ……佳子さん?大丈夫?

佳子 ……ごめんなさい

柳子 え?

亜耶 私とみーちゃんが小学4年生の時、それは、起こりました

柳子 亜耶

亜耶 何?

柳子、無言で亜耶を抱き締める。

亜耶 ……お母さん?

柳子 亜耶……ごめんなさい……

亜耶 何が?

柳子 ……お父さんね……佳子さんに、奪られちゃった……

亜耶 ……え?

佳子、泣きながら美鈴を抱き締める。

美鈴 どういう事……?

佳子 ごめんね……美鈴……

美鈴 亜耶ちゃんのお父さんは、亜耶ちゃんのお父さんでしょ?どうして、私のお父さんになるの?

佳子 ごめんね……本当に、ごめんね……でもね、お母さん、顯吉さんの事、本当に、愛してるの……愛してしまったの……!!

美鈴 ……私も……亜耶ちゃんの事、好きだよ……?

佳子 ごめんね……

美鈴 違うよお母さん。私、亜耶ちゃんの事、好きなの。大好きなの……

佳子 ごめんなさい……!!

洋美(回想)、登場。

洋美 お姉ちゃん

佳子 何も言わないで

洋美 これで満足？

佳子 分かっているから

洋美 あんなにお世話になった柳子さん達を不幸にして、父さん母さんを悲しませて

佳子 ちよつと黙ってて

洋美 少しは人の気持ち

佳子 分かっているから！

洋美 分かっているから！

佳子 分かっているから！……私が一番分かっているから！……もう、放っておいて

よ……

……

佳子 私はただ、信じただけよ……？

美鈴、亜耶に声をかける。

美鈴 亜耶ちゃん

亜耶 ……

美鈴 あの、ね？私……あの……

亜耶 良かったね

美鈴 え？

亜耶 みーちゃんにもお父さんが出来て

美鈴 ……

亜耶 みーちゃん、ずっとお父さん、欲しがってたもんね？

美鈴 知らない

亜耶 は？

美鈴 お父さんなんか、知らない。私は、亜耶ちゃんが

亜耶 知らないって言うなあ……！

美鈴 ……？

亜耶 ……ごめん(立ち去ろうとする)

美鈴 亜耶ちゃん……！

亜耶 (立ち止まる)

美鈴 ……私達……これからも、親友、だよ？

亜耶 (頷く)

美鈴 ……ありがとう

亜耶 ……ふざけるな。私とお母さんのお父さんを奪っておいてふざけるなあ……？

……………って、素直にそう言えたなら、どんなに良かったでしょうか

柳子 亜耶。本当にごめんなさい。でもね、亜耶。この世界には、私達よりも貧しくて辛くて苦しい思いをしている人達が沢山居るの。だから、亜耶。お母さんと一緒に、この悲しみを乗り越えよう？私達、たった2人だけの親子なんだから……………ううう……………

美鈴

亜耶ちゃんへ。お元気ですか？私は、相変わらずです。あ(アドリブで別の名前)

は、相変わらず元気です！お母さんも、亜耶ちゃんのお父さんも。2人は、あともう少ししたら、正式に、結婚するのだそうです。私には、関係ないけど。

新しい学校は……………楽しいですよ！でも、やっぱり、亜耶ちゃんが居ないと、つまらないです。寂しいです。あ、今度、お母さんが携帯を買ってくれるそうです。

メールアドレス、決まったら連絡するね……………私達、これからも、親友だよね？

柳子

亜耶、今度の誕生日、何が欲しい？あまり高いものは買ってあげられないけど

亜耶

みーちゃん

柳子

え？

亜耶

ううん……………これ(カエルのパペット)、もう一匹欲しい

柳子

もう一匹？どうして？

亜耶

……………ひとりぼっちじゃ、寂しいでしょ？

柳子

……………そうね

亜耶

(カエルを操って)ゲロゲロ

柳子、亜耶の頭を撫でる。亜耶、ちよつと泣く。

美鈴

お久しぶりです。美鈴です。先日は、私達のお父さんの葬儀にご参列戴き、誠にありがとうございました。49日も無事に終わり、こちらもようやく落ち着いてきた所です。最近はいかがお過ごしですか？私は……………こんなタイミングで、私の立場で言うべき事ではない事を重々承知の上で言いますが、実は私、今度、結婚する事になりました……………それでね？私……………本当にごめんなさい。私、どうしても、亜耶ちゃんにも、亜耶ちゃんのお母さんにも、結婚式に出て欲しい。更には言えば、亜耶ちゃんに、スピーチもお願いしたい……………沢山悩んだけど、やっぱり、私の親友は、亜耶ちゃんだけだから……………ご検討、何卒、よろしく  
お願い致します

美鈴、頭を下げる。亜耶が考えている事、終わり。照明変化。

【2019年9月・ロマネスクタワー・305号室】

チヨコ

結婚……………

洋美

反応するのそこかよ

亜耶

私、どうしたら良いのかが分からなくなっ

洋美

行かなくて良いよ、そんなの